

## 即席ディベート

### 友情についての即席ディベート

教科書の教材文である「親友」を読み、登場人物の行動は友情といえるかどうかについて、一人一人が自分の考えをワークシートに書いていきました。その後、学級の代表者による「即席ディベート」を行いました。本格的なディベートのように時間やルールを決めて行うのではなく、授業者が司会を務め、ディベーターの生徒の考えを引き出すように進めました。聞いている生徒が、両派の考えを聞くことで、自分の考えを深めることをねらいとしました。

教材の内容が、価値論題として取り組みやすいものだったせいか活発な討論となりました。「いえる」派も「いえない」派も根拠を示しながら自派の主張を述べていました。ディベート終了後には、討論により深まった意見を一人一人ワークシートにまとめました。

### ワークシートの記述内容

#### 《自分の考えーいえない派》

知美は、わざと転んだけれども、結局、麻子が最後だったので、まわりの人から転んだ人より遅いと言って、バカにされるんじゃないかなと思いました。それより、知美は1位になり「麻子の分まで頑張ったよ」と言えばよかったと思います。

#### 《ディベートで出た主な意見》

[いえる]

- 友情とは情だから、気持ちが伝われば良いと思う。
- 麻子が分かっていたらいい。

[いえない]

- 転んだのは麻子のためと言えない。何もそれは、転ばなくても他に伝えられるのではないかな。
- それでは、麻子が余計にバカにされる。
- まわりの人も見ている。

#### 《ディベート後の自分の考え》

私が考えている「友情」は、優しさや思いやり、信頼だと思います。そして、「友情」には、厳しさも必要だと思います。いつも仲良くしていて、その人がわるいことをしても、何も言わずに黙って見ているというのは、「友情」とは言わないのではないかなと思います。そんなときに、はっきり言えるのは真の友情だと思います。